

---

# 出会い

如月乙姫

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

出会い

### 【Nコード】

N8588D

### 【作者名】

如月乙姫

### 【あらすじ】

ジン×ベルモットです。二十年前のお話。シャロンに連れられて初めて組織にきたクリス。そこで会ったのは、黒澤陣と名乗る銀髪の少年だった…… この小説はシャロンとクリスを別人と仮定します。

二十年くらい前の話だ。

母に連れられて私は組織の本部へと来た。

母は男と話している。

「お母さん」

私は母の後ろに隠れた。

「ん?? シャロン、君の娘かい??」

男は私を見て言った。

「ええ… クリスって言うの… 私に似てるでしょ??」

「ああ… ゆっくりして行くといいよ」

男は母に別れを告げた。

「クリス… ここにいるのよ」

母は私を部屋に置いて何処かへ行った。

（つまんない…）

私はそう思うと部屋から出た。

（みーんな黒い服を着てるのね）

私はそう思いながら歩いていた。

「おい… ガキ」

後ろから声をかけられて振り返った。

そこには私と同じくらいの歳の少年がいた。

「貴方、誰??」

私は綺麗な銀髪の少年に聞いた。

「俺は陣… 黒澤陣だ」

「私はクリス・ヴィンヤードよ」

私たちは仲良くなった。

「陣は組織の人間なの??」

「そうだ… お前は違うようだな」

陣は私の顔を見た。

「私はお母さんが組織の人間なの」

「そうなのか」

それから色々話した。

「そろそろ戻らなくていいのか??」

陣の言葉で時計を見た。

「うん…陣…私たち…また会えるかな??」

「さあな…会えるかもな」

陣はそう言つと部屋まで送つてくれた。

「クリスマス!!!!」

母が駆け寄つて来た。

「心配したのよ…勝手にいなくなっちゃって」

母は陣に目を向けた。

「貴方が連れて来てくれたのね…ありがとう、陣」

「いいえ…失礼します」

陣は私の方を向いた。

「じゃあな…クリスマス」

陣に初めて名前を呼ばれた時だった。

それから十年くらいたつて私は組織の構成員になり、暗号名ベルモットと呼ばれるようになった。

「お前がベルモットか??」

銀髪の男が言う。

「ええ…貴方はジンね」

私が言つとジンは驚いたように

「なんで知つてんだ??」

と、言つた。

「私たち会つたの初めてじゃないもの」

私は笑つて続けた。

「私の事…忘れたわけじゃないわよね??…陣」

「…クリスか??」

私はうなづいた。

「ええ…また会えたわね」

この出会いは運命だったのかもしれない…

恋に落ちる事も…

きっと運命だった。

好きよ…陣<sup>ジン</sup>…

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8588d/>

---

出会い

2010年10月9日22時54分発行